

まえがき

著者	天川 直子
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
シリーズタイトル	研究双書
シリーズ番号	553
雑誌名	後発ASEAN諸国の工業化 : CLMV諸国の経験と展望
ページ	i-ii
発行年	2006
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00011877

まえがき

本書は、CLMV開発展望研究事業の一環として平成17(2005)年度に実施された「CLMV諸国の工業化展望」研究会の成果である。CLMVとは1990年代に東南アジア諸国連合(ASEAN)に加盟した国々、すなわちカンボジア(1999年加盟)、ラオス(1997年加盟)、ミャンマー(1997年加盟)、ベトナム(1995年加盟)の英語表記の頭文字をASEANの慣習に倣ってアルファベット順に並べた呼称である。

CLMV開発展望研究事業は、平成14(2002)年度から4カ年計画で実施された。本研究事業の目的は以下のとおりである。CLMV諸国はいずれも国際社会に対しては長らく国を閉ざしてきたが、ほぼ同時に対外開放と市場経済化を謳うにいたった。カンボジアは1991年の「カンボジア紛争の包括的政治解決に関する協定」の調印と1993年の制憲議会選挙を経て、新政府を樹立し、国際社会に復帰した。ラオスは1986年に「チンタナカーン・マイ」(新思考)政策を承認し「新経済メカニズム」と呼ばれる市場経済化に乗り出した。ミャンマーでは1988年に「民主化運動」によってネーウィン体制は崩壊した。かわって軍部が「国家法秩序回復評議会」(SLORC)として政権の座に就き、市場経済化と対外開放に踏み切った。ベトナムは、1986年に「ドイモイ」(刷新)路線を採択し、以後2000年代半ばにかけて次第に市場経済化と対外開放に本格的に取り組むようになった。

これら諸国が市場経済化と対外開放に乗り出した時期こそ、グローバリゼーションが現象として語られ始めた時期である。したがって、CLMV諸国がグローバリゼーションによっていかなる影響を受けているかを検討することが本研究事業の課題であった。

平成14年度から16年度にかけては、国別に研究会を組織し、上記の課題に

ついて、政治、経済、社会のさまざまな側面を分析した。そして、本研究事業の最終年度にあたる平成17年は工業化をテーマに選んだ。その理由は序章を参照されたい。

本書の出版をもって、本研究事業は4つの国別研究会と1つのテーマ別研究会という計5研究会が予定どおり無事に成果を公刊するという形で終了する。これはひとえに、ご協力いただいた国内外の方々のおかげである。また編者は、この間、各研究会にご参加下さった方々の調査研究活動への精力的かつ真摯な取り組みに強く感銘を受けた。深い敬意を表するとともに、この幸運を自身の糧としたい。

2006年 8 月

編 者